

# 北海道で再エネ事業

## DNH 新領域を積極展開

DNホールディングス（HD）は、脱請負に向けた新領域事業を積極的に展開する。下川運輸（北海道下川町、川島大助代表取締役

役）と三洋貿易の3社による共同出資会社「北の森グリーンエナジー」で木質ペレット燃料の製造などを実施。社会課題解決へ向けた再生可能エネルギー事業を推進するとともに、地域活性化につながるような事業にも取り組む方向だ。

DNHDが2日に東京都内で開いた決算説明会で、新井伸博社長が今後の経営方針を明らかにした。

北の森グリーンエナジーは、国産未利用材を用いた木質ペレット燃料の製造や、製造した木質ペレット燃料を炭化する際に発生するガスを利用して発電する木質バイオマスガス化発電事業を手掛ける。当初は、北海道バイオマスエネルギー（HBE、北海道下川町、塚田聡社長）が日本最大級の規模で運営していた。3月31日付で操業を休止した後、下川運輸ら3社が事業を譲り受けた。

下川運輸を現場オペレーション、工場などのメンテナンスを三洋貿易、経営管理をDNHDの大日本タイヤコンサルタントが担う。新井社長は「再生可能エネルギー事業は社会課題には大きく寄与する。公共事業に依存せず、社会課題に対応する新しい事業を手掛けていく一環となる」と述べた。

